Musica poetica 2019

Requiem Gathering for the Consolation of Souls

〈レクイエムの集い〉

～魂の慰めのために～

「シメオンと幼子イエス」
ペトル・ブランドル

11.7 木 19:00開演（18:30開場）

三鷹市芸術文化センター「風のホール」
JR中央線三鷹駅より南へ徒歩15分
三鷹駅南口よりバス②⑥⑦「八幡前」下車

［全席自由］一般:4,000円／学生:2,500円

主催■ムシカ・ポエティカ T.03-3970-0585 F.03-3998-5238 http://www.musicapoetica.jp
マネジメント・予約■菊田音楽事務所 T/F.042-394-0543

HEINRICH SCHÜTZ (1585-1672)

この仮の宿にあってあなたの掟をわたしの歌とします。
（詩編 119;54）

シュッツの追悼歌 撰

I 主よ、今こそこの僕を［シメオンの讃歌］
Herr, nun lässest du deinen Diener SWV432

我知る、我が救い主の生くるを［ヨブの言葉］
Ich weiß, daß mein Erlöser lebt SWV393

天地は滅びるが［イエスの言葉］
Himmel und Erde vergehen SWV300

II 山の上で叫び声が［エレミアの預言］
Auf dem Gebirge hat man ein Geschrei gehöret SWV396

我が子、アブサロン［ダヴィデの哀泣］
Fili mi, Absalon SWV269

主よ、わたしはあなたを慕う［ダヴィデの詩］
Herzlich lieb hab ich dich, o Herr SWV348

III 思い起こさせよ、汝が僕への汝が御言葉を［詩編119;49-64］
Gedenke deiner Knecht an dein Wort SWV485

我がこと主に委ねたり［J.レオン］
Ich hab mein Sach Gott heimgestellt SWV94

IV 我は復活なり、生命なり［イエスの言葉］
Ich bin die Auferstehung und das Leben SWV464

父 アブラハムよ、我を憐れみ給え［ラザロと金持ちの寓話］
Vater Abraham, erbarme dich mein SWV477

心より愛し奉る主よ［M.シャリング］
Herzlich lieb hab ich dich, o Herr SWV387

●アンサンブル・サギタリウス & 器楽奏者 当日の出演者

テノール■及川　豊　　バス■浦野　智行／中川郁太郎
ヴァイオリン■奥村　琳／二宮　昌世
サックバット■宮下　宣子／南　紘平／小野　和将／生稲　雅威
オルガン■椎名雄一郎
指揮／バリトン■淡野　太郎　指揮／メゾ・ソプラノ■淡野　弓子

●ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京 当日の出演者

ソプラノ■今村ゆかり／川田　純子／阪本　恭子／柴田　圭子／巽　瑞子／玉井　千恵／山田みどり／大和　美信
アルト■秋山百合子／石塚瑠美子／影山　照子／小西久美子／佐藤　道子／中村　光子
テノール■武藤　和明／依田　卓
バス■阪本　一郎／中村　誠一

●当日のプログラム小冊子に追悼なさりたい方のお名前を掲載させていただきます。（掲載無料・詳細裏面）

Requiem Gathering for the Consolation of Souls

シュッツが87歳と29日という当時としては長い生涯を終えたのは1672年11月6日のことでした。
350〜400年前の音楽とは思えぬ斬新なアイディア、新鮮な響きの源は一体どこに？

今回のプログラムは、長命であったがゆえに多くの親しい人々を見送らねばならなかったシュッツが、
その死を悼んで書いた葬送音楽に始まり、聖書の告げる残酷な死、死への省察、黙想の音楽を経て、イエスの福音
「我は復活なり、生命なり。我を信ずる者は死ぬとも生きん。」へ導かれるという構成です。

「この仮の宿にあってあなたの掟をわたしの歌とします。」はダヴィデ詩編119;54の詩節ですが、
シュッツは自分の葬儀における説教のタイトルにこの言葉を選びました。
自らの生涯をこの言葉で締めくくった彼の高貴な魂を憶います。
今年も、親しい方々を亡くされた皆様とともに安らぎのひとときが与えられますように。

2019年秋　ムシカ・ポエティカ **淡野 弓子**

Profil

及川 豊 Yutaka Oikawa ［テノール］

盛岡市出身。岩手大学教育学部及び東京藝術大学音楽学部声楽科を卒業。バロック初期から古典派までの宗教曲を得意とするテノール歌手であり、グレゴリオ聖歌・ルネサンス音楽も含めた少人数でのアンサンブル歌手としても活躍している。2014年にはシューマン《詩人の恋》を演奏、2016年から〈シューマンに恋して〉と題するリサイタルを毎年行なっている。声楽を佐々木正利、鈴木寛一の各氏に師事。ヴォーカルアンサンブル・カペラ、ベアータ・ムジカ・トキエンシス各メンバー。聖グレゴリオの家宗教音楽研究所合唱講師。

浦野 智行 Chiyuki Urano ［バス］

東京藝術大学ではじめホルンを専攻、後に声楽に転向。日本音楽コンクール、奏楽堂日本歌曲コンクールなど、数多くの入賞歴を持つ。透明かつ柔らかい声と透徹したテクスト解釈で安定した歌唱を見せている。オペラ、オラトリオの分野で活躍する一方、歌曲にも力を注ぎ、特にロシア歌曲の歌唱、解釈では高い評価を得ている。バッハ・コレギウム・ジャパンのメンバーとして活躍中。2004年発売のCD「トルストイのワルツ—ロシア文豪の音楽—」（キングレコード）に歌曲で参加、音楽誌上で好評を得る。「ムシカ・ポエティカ」スタッフ・プレーヤー。

中川 郁太郎 Ikutaro Nakagawa ［バス］

東京藝術大学大学院独唱科修了。藝大定期ハイドン《天地創造》（M.アンドレーエ指揮）でデビュー。その後ドイツに留学し、ハレ教会音楽大学に学ぶ傍ら、ライプツィヒでP.シュライアー氏、H. Ch. ボルスター氏等に師事。帰国後、多数の宗教曲のソリスト・指揮者として活躍。現在は立教大学大学院キリスト教学研究科博士課程後期課程で教会音楽をさらに研究している。K.M.C.合唱団、混声合唱団コルス・クビクルム東京各指揮者。東京室内歌劇場会員。東北学院大学宗教音楽研究所特任准教授。「ムシカ・ポエティカ」スタッフ・プレーヤー。

椎名 雄一郎 Yuichiro Shiina ［オルガン］

東京藝術大学卒業、同大学院修了。1994年から2002年にかけて欧州各地の国際コンクールで優勝、高位入賞を果たす。1999年10月よりオーストリア政府奨学金、ローム・ミュージック・ファンデーション奨学金を得てウィーン国立音楽大学に留学、オルガンをM.ラドレスク氏、チェンバロをG.マレー氏に師事し満場一致、最優秀の成績で卒業。その後スイス、バーゼル・スコラカントルム音楽院に留学、オルガン、チェンバロ、通奏低音、アンサンブルを修める。日本のほか欧州各地で演奏活動。CD:「バッハのオルガン解体新書」「平和の祈り」「メンデルスゾーンオルガン作品集」などをリリース、『レコード芸術』誌特選盤に選ばれるなど高い評価を受けている。現在、長崎・活水学院オルガニスト、活水女子大学音楽学部教授。東京藝術大学非常勤講師。「ムシカ・ポエティカ」スタッフプレイヤー。

淡野 太郎 Taro Tanno ［指揮／バリトン］

東京都立芸術高校を経て東京藝術大学卒業。声楽を岡崎實俊、佐々木正利、嶺貞子の諸氏に師事。1997年渡欧。A.ギーベル、C.モラーヌ、Z.ファンダステーネ、H.ボルスター各氏に師事。ヘアフォルト教会音楽大学に学び、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス室内合唱団メンバーとして活動。2007年帰国の前後より指揮活動を本格化させ、宗教曲を中心に数多くの作品を指揮、好評を博す。ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京常任指揮者。ユビキタス・バッハ、メンデルスゾーン・コーア各指揮者。ドイツ歌曲研究会「ノイエ・クレンゲ」代表。「ムシカ・ポエティカ」スタッフ・プレーヤー。

淡野 弓子 Yumiko Tanno ［指揮／メゾソプラノ］

東京藝術大学声楽科卒業。1964年ドイツ・ヘアフォルト教会音楽大学に留学。W.エーマンの許で合唱指揮を学び帰国。1968年「ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京を設立。"学びと実践"をモットーにシュッツ、バッハらの宗教音楽によって各々の団員に与えられた声を開発し、演奏を通して心魂を鍛え深めて行くことを目標に2008年までの40年間、常任指揮者として活動。1984年、音楽グループ「ムシカ・ポエティカ（音楽詩学）」を組織し、A.ギーベル女史を始めとする内外の優れた音楽家の助力のもと多くの主要合唱作品を紹介。2008年常任指揮者退任。2010年、米国在住のE.マンヨン女史を訪ね自らの声を再構築、以後主軸を声楽に移し活動。CD:「H.シュッツの音楽」Vol.1-4 他。著書：平凡社新書『バッハの秘密』。「ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京」主宰／桂冠名誉指揮者。活水学院宗教音楽研究所研究員。「ムシカ・ポエティカ」代表。

ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京 Heinrich-Schütz-Chor Tokyo

1968年4月東京に発足。淡野弓子、故H.J.コルロイター、故鈴木仁、淡野太郎らの指揮のもとに公演を続け日本を代表する合唱団の一つとして内外の信頼を寄せられている。2001年シュッツ全作品およそ500曲の演奏を達成。2008年創立40周年を機に淡野太郎が常任指揮者に就任。彼の指揮によるR.マウエルスベルガー《ルカ受難曲》は毎日新聞紙上で高い評価を受け、2013年度の優れた演奏の1つとして記録されている他、『音楽之友』誌「39人の音楽評論家・記者が選ぶコンサート・ベストテン2015」では谷戸基岩氏によって2015年11月演奏の柴田南雄《無限曠野》が1位に選ばれた。シュッツ合唱団は2017年9月、第6回目となる渡独公演をブラウンシュヴァイク、ベルリン、エアフルトの3都市で成功裏に終え帰国。2018年には創立50周年を記念する4回のコンサートが催され、今年の4月にはバッハ《ヨハネ受難曲》を演奏し、いずれも好評を博す。

Musica poetica

ムシカ・ポエティカ講座 音楽実践のお知らせ

日時　10月1日（火）より10月29日（火）までの毎週火曜日（19:00〜21:00）全5回
講師　淡野弓子　シュッツ《小教会コンチェルト》より独唱／重唱
場所　日本キリスト教団本郷教会　杉並区上荻4-24-5　JR西荻窪駅北口より北へ徒歩10分。左側タバコ店の十字路を右に入り1分、左側。
受講料　15,000 円（全5回）★各回毎の受講（1回：3,500円）も可能です。（プリント代：別途）
お申込　受講ご希望の方は　e-mail：yumiko@musicapoetica.jp にご連絡下さい。9／29（日）まで受け付けます。

ムシカ・ポエティカ 2020 春

3月7日㈯ 14:00 早稲田奉仕園 スコットホール
〈19世紀合唱音楽の集い〉その4
合唱■メンデルスゾーン・コーア／指揮■淡野太郎

4月3日㈮ 19:00 武蔵野市民文化会館［ARTE］小ホール
〈受難楽の夕べ〉2020
合唱■ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京／指揮■淡野太郎

主催■ムシカ・ポエティカ T03-3970-0585 F 03-3998-5238 http://www.musicapoetica.jp ／チケット予約／マネジメント■菊田音楽事務所 T・F 042-394-0543

11月7日（木）《レクイエムの集い 2019》追悼者記載申込書

追悼なさりたい方のお名前を下欄にご記入の上、10月28日（月）までにムシカ・ポエティカ宛、郵便あるいはFAXにてお送り下さい。
掲載は無料ですが当日ご参会頂ければ嬉しく存じます。

〒176-0025 東京都練馬区中村南2-24-12「ムシカ・ポエティカ」 TEL.03-3970-0585 FAX.03-3998-5238

キリトリ線

故人のお名前	（ふりがな）	故人のお名前	（ふりがな）
生前のお仕事（お差し支えなければお書き下さい）		生前のお仕事（お差し支えなければお書き下さい）	

申込者お名前：　　ご住所：〒　　TEL.

●チケット（　要　／　不要　）　・全席自由（4,000円）　枚　・学生（2,500円）　枚

・当日受付にて代金引き換え　・郵送希望（到着後郵便振替）　※いずれかに○をお願い致します。